

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立南小学校	校長	岡田 恵子	生徒指導主事	松本 真美
取組事例名	『校則の見直し大作戦！～自分を大切に 相手を大切に～』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
校則の見直しを図ることを通して、児童自ら主体的に考え、判断し行動できる力を育成し、規範意識を高め、よりよい学校生活を送ることができるようにしたい。	南小学校の一員として、よりよい学級・学年・学校をつくっていくために自分には何ができるのかを考え行動したり、課題を見出し他者との関わりの中で解決したりする。相手を思う心を持つとともに自分を好きになり大切にする。

2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
<p>(1) 児童会が、学校の月間生活目標や取組内容について話し合い、企画、立案する。</p> <p>○全校児童が、きまりの意味やきまりを守ることの意義、南小学校の自慢を増やしていくために全校で頑張っていくことを考える。</p> <p>⇒「靴揃えを自慢にしたい。」 「ぼかぼか言葉をもっと増やしたいな。」</p> <p>○全校の児童の意見を整理して、学校の月間生活目標を決め、発信する。</p> <p>(2) 児童会が、校則の見直しについて話し合う。</p>	<p><b>児童にめあてをもたせるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童会だけが、学校の月間生活目標を考え全校に発信するのではなく、全校の児童の意見を活かし、それを全校の目標とする。</li> <li>児童、教職員、保護者の三者で検討を行う「きまり見直し検討委員会」を発足し、教職員が裏で支援する。事前に校内研修において、校則見直しについて教職員の意識統一を図る。保護者においては、PTA 役員会を活用する。</li> </ul>
<p>取組内容：「校則見直し大作戦！」</p> <p>①児童会が5つの視点で校則を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生まれ持った性質を侵害する内容</li> <li>健康上の問題を生じさせる恐れがある内容</li> <li>性の多様性を尊重できない内容</li> <li>合理的な理由を説明できない内容</li> <li>きまりがあることによって、困る人が出てこないか</li> </ul> <p>②児童会の見直した校則に対して、5、6年生児童を中心に話し合い意見を出す。</p> <p>③児童会が意見を整理して、再度検討する。</p> <p>④全校児童に発信する。</p>	<p><b>児童の意欲を高めるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題だけではなく、学校の強みやよさにも気づかせ、さらに自分たちで高めていこうという思いを持たせる。</li> <li>改定した校則について、児童自らが「よりよく過ごすことができるか」先を見通して考えさせる。 改定した校則に新たにルールを付け加える。</li> </ul>
<p>【改定した校則の一部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>髪型の規定が男女別になっていたが、区別せず共通なものにした。</li> <li>冬のカイロについては服に貼るものだけを認めていたが、貼らないものも許可。但し、必ず持ち帰ること、ポケットから出さないことをきまりとして明記した。</li> </ul>	<p><b>児童の頑張りを認め、価値付けるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の意見から委員会につなげると良いものはつなげ、関わる児童の輪を広げていく。目標達成のお楽しみ企画を実施する。 (例 靴揃え⇒環境美化委員会へ)</li> </ul> <p>【委員会作成例】 ぼかぼかツリー      環境整備カード</p>

3 成果と課題
<p>○きまりの意義について考えた際、「きまりは必要だと思う」と100%の児童が答えていたが、「なぜきまりを守るのか。」という問いに対して「きまりだから。」「怒られるから。」という受動的な考えが多く見られた。取組後、「南小学校をよりよくしたいから。」「みんなが気持ちよく過ごせるから。」きまりを守ることが「自分のことも相手のことも大切にすること」につながることに気付くことができ、よりよい学校生活を送るために自ら考え、判断し行動する児童の姿が見られるようになった。</p> <p>●児童アンケートから「自分には良いところがある」が7月78.7%、1月72.2%であった。「全校で高まっていこう」「絆を広げよう」と児童が主体的に企画し進める取組を推進することができるよう、裏で教職員がしかけたり、サポートしたりして、関わりの中で自分や相手の良さに気づき、自分も相手も大切にする心の育成に努める。</p>